

第67回全国公立学校教頭会研究大会茨城大会

提言者への執筆説明会 《オンライン》

司会：茨城大会実行委員会 研究副部長 和田 聡史

1 日程 令和6年9月13日（金） 15：30～16：30

2 内容

- (1) はじめのことば（茨城大会実行委員長 安齊 寛）
- (2) 会長あいさつ（全公教 会長 松野 博文）
- (3) 全公教 研究の取組について（全公教 研究部長 畠中 恒）
- (4) 令和6年度 第13期研究主題について（全公教 研究部長 畠中 恒）
- (5) 茨城大会サブテーマについて（茨城大会実行委員会 研究部長 稲生 茂穂）
- (6) 執筆要領について（茨城大会実行委員会 研究部長 稲生 茂穂）
- (7) その他 諸連絡（茨城県小中学校教頭会事務局次長 上宮 正人）
- (8) おわりのことば（茨城大会副実行委員長 根本 義典）

※終了後、分科会ごとにブレイクアウトルームへ進み、打合せを行います。

3 ZOOM 接続情報（開会 30 分前から接続可能です。お早めにご入室ください。）

<https://us02web.zoom.us/j/87104973090?pwd=Q6iZ6ep2huLYSLy9nA0FT1RRRMbWKb.1>

ミーティング ID：871 0497 3090 パスコード：898758

※ZOOM の名前表示は「都道府県・氏名」でお願いします。

※音声はオフ（マイクミュート）でご参加ください。

第67回 全国公立学校教頭会研究大会

茨城大会



提言執筆説明会

～研究の趣旨説明～

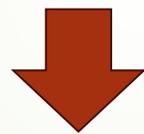
全国公立学校教頭会 研究部



全国公立学校教頭会は...

「政策提言能力」を備えた

「職能研修団体」



調査(要請) と 研究 は

全公教の 2本柱

研究の**基本方針**



学校教育の課題の解決に努める



**副校長・教頭の職務内容や
職務機能を追求する**



**研究成果を政策提言活動
(要請活動) に生かす**

第 13 期全国統一研究主題 (令和5～7年度)

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

キーワード：自立・協働・創造

未来を切り拓く力

◆ 個性を発揮し、自信をもって自らの未来を、
自らの手で切り拓く力

様々な困難な課題に自ら考え、判断し、
積極的に対応する力

人との絆を重視、他者との協働による問題解決、価値創造

魅力ある学校づくり

◆ 「よりよい学校を通して、よりよい社会を創る」という理念
(学習指導要領前文)

子ども、保護者、地域住民の方々、職員にとって
「魅力ある開かれた学校づくり」

6つの全国共通研究課題

第13期全国統一研究主題

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

キーワード：自立・協働・創造

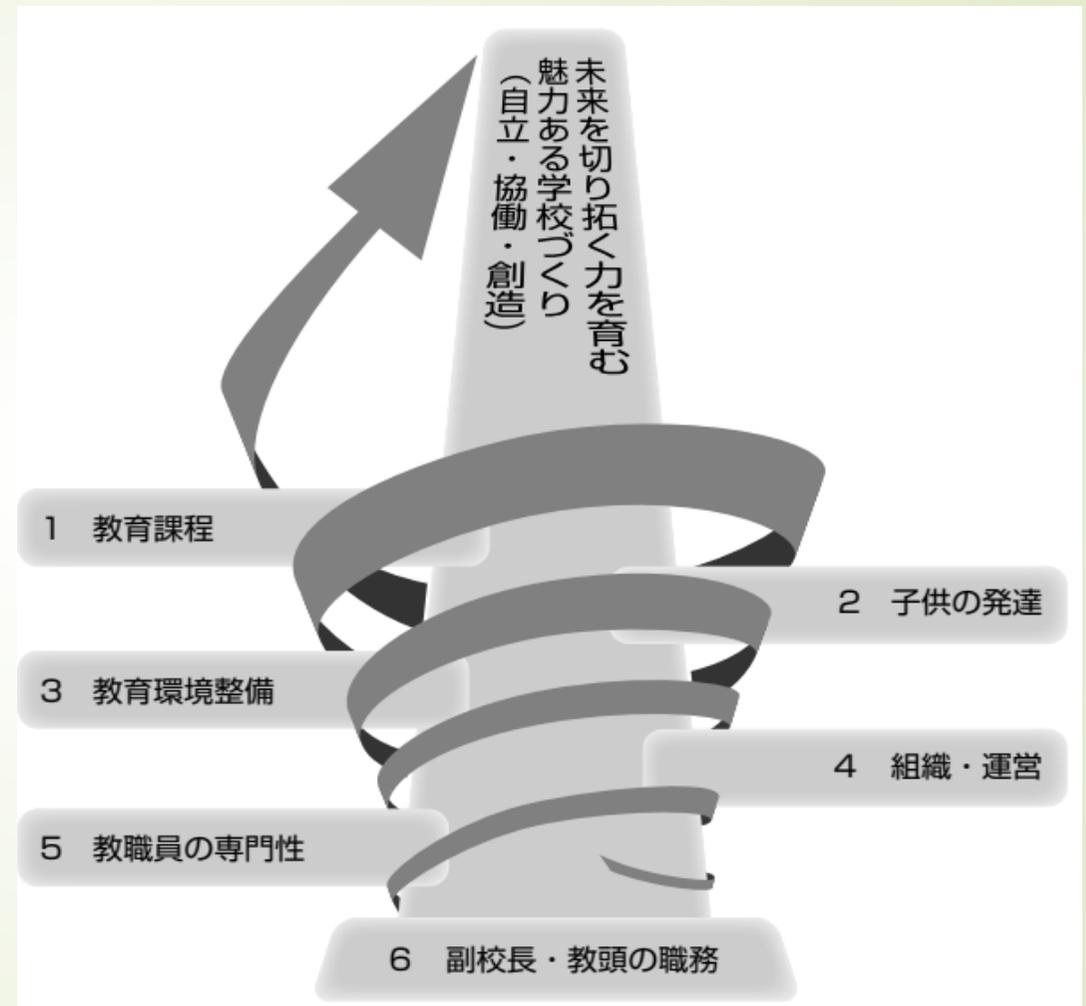
- ◆ 第1課題：教育課程に関する課題
- ◆ 第2課題：子供の発達に関する課題
- ◆ 第3課題：教育環境整備に関する課題
- ◆ 第4課題：組織・運営に関する課題
- ◆ 第5課題：教職員の専門性に関する課題
- ◆ 第6課題：副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題

研究主題と全国共通研究課題

第 13 期全国統一研究主題

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

キーワード：自立・協働・創造



3つの「C」に焦点化した実践的研究

継続性

C*ontinuity*

これまでに解明されたことは何か
残された課題は何かを踏まえた
課題解決型の研究の継続的推進

協働性

C*ollaboration*

同じ副校長・教頭としての同僚性を発揮
開かれた関係における
組織的かつ協働的研究の推進

関与性

C*ommitment*

自校での職務遂行や校内研修における
副校長・教頭としての役割・関わり方
各単位教頭会研究との課題の共有・反映

第67回 全国公立学校教頭会研究大会

茨城大会サブテーマ

「郷土を愛し

協働して未来にはばたく人財を育む

活力ある学校づくりの推進」

みなさんの提言発表をもとに

実り多き大会を目指していきましょう

全国公立学校教頭会 研究部



サブテーマ設定の理由及び研究協議の視点について（第 3 案）

1 大会主題 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

（第 1 3 期 全国統一研究主題 3 年次）

<キーワード> : 自立・協働・創造

[サブテーマ] : 郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進

2 茨城大会のサブテーマ

第 1 3 期 3 年次に当たる茨城大会は、前年度の高知大会の研究の成果と、第 1 3 期全国統一主題及びキーワードの趣旨を踏まえて、サブテーマを「郷土を愛し 協働して未来にはばたく人財を育む 活力ある学校づくりの推進」と設定した。

私たちが生きている今の時代は、少子高齢化、気候変動、地震等の大規模災害、海外での軍事侵攻・内戦、テクノロジーの進展等、様々な課題や変化に向き合い、対応しなければならない時代である。今後、社会の構造や情勢は劇的に変わり、子どもたちが生きる未来は、更に予測困難で非連続的かつ多様性の時代となることが見込まれる。

開催地である茨城県は、毎年「都道府県魅力度ランキング」において、最下位を争っている。しかし、最下位であることが本県を有名化し、魅力ともなっている。県内を眺めると、県北の「袋田の滝」、水戸の「偕楽園」・「弘道館」、県南の「霞ヶ浦」・「研究学園都市」、県東の「鹿島臨海工業地域」、県西の「結城紬」等、自然と歴史と未来が混在する現代日本の縮図ともいえる県である。しかしながら本県でも、高齢化が進み、山間地域の人口流出や都市部との教育格差が進んでいる課題が見受けられる。こうした課題に対して、郷土を愛し、協力し合い、未来を創り出す子どもたちの育成が求められている。

このような状況を踏まえ、学校は ICT を活用した「教えから学び」への授業改善を図り、子どもたちの努力や挑戦のプロセスを値打ち付け、勇気づけることで、自己肯定感や自己有用感を高め、努力や挑戦を続けようとする内発的な志を引き出すことを通して、子どもたちの喜びを教員としての喜びや働きがいに昇華させていきたい。また、「子どもたちにとって最大の教育環境は、教員である。」という理念のもと、教職員の資質向上が子どもたちの成長に大きく関わってくることが教職としての最大の魅力であることを発信していくことで、教職の魅力度も向上させていきたい。そのためにも我々副校長・教頭は、自らが時代の変化や直面する課題に対して果敢に挑戦し、学び続ける存在として教職員をリードし、励まし、子どもたちと共に学び続ける教職員集団を構築していきたい。これらの取組をとおして、予測困難なこれからの社会をたくましく生きていく資質・能力である「未来を切り拓く力」を育み、子どもと教職員一人一人が「魅力ある学校」づくりを進めるために、わたしたち副校長・教頭がどのように関与し、具現化していくか、追究していきたい。

3 茨城大会研究協議の視点

(1) 「未来を切り拓く力を育む」学校教育を考える

茨城大会においては、「未来を切り拓く力を育む」ことを「協働して未来にはばたく人財を育む」ととらえる。

学校は、子どもたちが主役となり、自主的に学校づくりに参画できる、楽しく魅力的な場であるべきである。そのために、ICT の活用を日常化させることで、個別最適な学びが推進されるだけでなく、教師と学習者、学習者同士、さらには学習者と学校外の多様な人々が直接関わり合いながら、協働して「深い学び」を実現することが重要である。具体的には、オンラインプラットフォームを活用して、異なる地域や国の子どもたちと共同プロジェクトを行ったり、学校内でのプロジェクトベースの学習を通じて、実際の社会問題に取り組んだりすることで、異文化理解やグローバルな視点を養ったり、地域社会に貢献する経験を積んだりすることができる。このような経験を通じて成長した子どもたちや教師が、社会に貢献し、自らの意志で何かを発信する力を身に付けることが求められているのである。

(2) 「魅力ある学校づくり」を考える

茨城大会においては、「魅力ある学校」を創るため、以下の要素が不可欠だと考える。

① 教育環境の整備

前述したように「子どもたちにとって最大の教育環境は、教員である」という理念のもと、教職員の資質向上が喫緊の課題となる。定期的な研修プログラムやメンタリング制度の導入、自己評価とフィードバックの実施、教職員同士のコミュニケーションと情報共有などの自己研鑽を取り入れていかなければならない。また、教職員自身だけでなく、SC や SSW、CS など外部にも協力してもらい、「チーム学校」として教育環境の整備を進めていく必要がある。

② 質の高い教育プログラム

学習課題の工夫や評価方法などの授業改善、個別最適な学びと協働的な学びのハイブリッド、インクルーシブ教育の推進、家庭や地域との連携、地域資源の活用など、子ども誰一人取り残すことがない質の高い教育を進めていかなければならない。

これらのことを達成していくために、わたしたち副校長・教頭が学校現場においてどのようにリーダーシップを発揮し、具体的な方策が有効か、「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当てた実践研究をとおして明らかにしていきたい。

令和6年9月13日

第67回全公教茨城大会
各提言者様

全公教茨城大会実行委員会
実行委員長 安齊 寛

第67回全公教研究大会茨城大会の提言原稿の執筆について（依頼）

残暑の候、提言者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
この度は、全公教研究大会茨城大会分科会提言発表をご承引いただきありがとうございます。大会2日目の分科会での提言について、提言原稿の執筆をお願いいたします。

なお、令和6年9月開催の「執筆説明会」にて、全公教第13期全国统一研究主題ならびに茨城大会サブテーマ、提言原稿要領について、詳しくご説明いたします。それに即した提言をお願いいたします。

また、プレゼンデータ（パワーポイント等）の提出は必要ありません。令和7年1月開催の「提言者研修会」での確認事項を踏まえた上で、作成していただき、来年度に提出となります。

何かとご多用とは存じますが、何卒よろしくをお願いいたします。

<報告先> 全公教研究大会茨城大会事務局までメール添付にて報告
メールアドレス iba-kyotoukai@ktd.biglobe.ne.jp

<提言原稿報告期限> 令和6年11月28日（木） 厳守

【今後の日程】

- ・令和6年9月13日（金）提言者への執筆説明会 《オンラインで》
- ・令和6年11月28日（木）提言原稿（A4判2枚）のデータ締め切り
- ・令和6年12月6日（金）茨城大会事務局が取り集めた原稿データを全公教へ送付
- ・令和6年12月9日（月）全公教の検討・審査の始まり
- ・令和7年1月6日（月）全公教の検討・審査の終わり
- ・令和7年1月24日（金）提言者研修会 《オンラインで》
- ・令和7年5月中旬 提言原稿最終提出
- ・令和7年7月初旬 パワーポイント提出
- ・令和7年8月1日（金）全公教研究大会茨城大会2日目分科会にて提言

※なお、1月提言者研修会については、後日お知らせします。

茨城県小中学校教頭会 事務局
〒311-1125 茨城県水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
TEL/FAX 029-269-2711
Email : iba-kyotoukai@ktd.biglobe.ne.jp

要項・提言原稿について

I 分科会の提言内容・研究の進め方

変化の激しい社会においては、生涯を通じて常に学び続ける姿勢が必要になってきており、家庭や地域との連携を進め、魅力ある学校をめざし共に育てていく視点が必要である。その推進役としての役割は、副校長・教頭が担っている。副校長・教頭の研究として、次の5点を研究の柱として取り組む必要がある。

- 副校長・教頭としての関与性が明確な研究
- 組織的で協働性のある研究
- 客観的で継続性のある研究
- 視点を明確にした鋭角的な研究
- 副校長・教頭としての資質向上につながる研究

1 踏まえない3つのポイント

- (1) 全公教第13期全国統一研究主題及び大会のサブテーマを踏まえた発表にする。
- (2) 提言領域は、全国共通課題（6課題）に沿って区分する。
- (3) グループ協議をしやすいするため、実践発表ではなく、ポイントをはっきりさせた提言型の発表にする。

2 研究の進め方の2つのポイント

- (1) 継続性・協働性・関与性（3C）に焦点を当てた実践的研究とする。
- (2) 全公教「研究の手引き」研究協議の視点に基づいて研究する。

II 分科会の提言者

- 1 分科会は、6課題10分科会とする。
- 2 第1課題から第5課題の1つの分科会は、全国提言1名、関東ブロック提言1名とする。
- 3 第6課題は全公教が主催し、運営は全公教総務部が行う。
- 4 特別分科会Ⅰ（全公教研究部主催）・特別分科会Ⅱ（開催地実行委員会主管）を開催する。

III 大会要項原稿のまとめ方

- 1 研究主題
 - ・提言する課題を具体的に表示すること。
 - ・全公教第13期全国統一研究主題及び大会のサブテーマを踏まえ、提言する分科会の領域に基づいて設定する。
- 2 サブテーマ
 - ・研究主題が大きい場合や方向性を示す場合、サブテーマを設定し、研究内容をより具体的にしたり、焦点化したりすること。
- 3 主題設定の理由
 - ・なぜ主題を設定したのか。主題設定の背景や課題性を簡潔にまとめる。
- 4 研究のねらい
 - ・どのようなことが課題となっているのか。
 - ・どのような方法で課題解決に取り組もうとしているのか。
 - ・何を明らかにしようとしているのか。
- 5 研究の経過
 - ・研究に取り組んだ経過及び取り組み内容を簡潔にまとめる。
- 6 研究の概要
 - ・副校長・教頭として「いつ、誰に、何について、どのような関わり」を簡潔にまとめる。
 - ・課題解決への具体的な方策について、量的・質的にも重視する。
- 7 研究の成果と今後の課題
 - ・研究の成果と今後の課題を簡潔にまとめる。
- 8 協議の柱
 - ・提言者研修会用には記載するが、大会要項には載せない。
(提言について、グループで協議する柱を1つ以上決めておく。)

提言原稿執筆要領①

I 字数・枚数について

- 1 体裁 20字×47行 2段組 A4判縦 横書き
- 2 原稿 使用ソフト「Word」によるワープロ原稿
- 3 ページ数 2ページ

II 執筆の仕方について（具体例も参照）

- 1 1ページ目 上部8行に次のことを記載する。
 - ※ 分科会名 研究課題「〇〇に関する課題」
 - ※ 提言の研究主題 及び 副題
 - ※ 提言者 〇〇県〇〇市教頭会 〇〇市立〇〇小学校 〇〇 〇〇

- 2 本文の開始 9行目より記載する。

3 提言項目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 主題設定の理由（9行目から）2 研究のねらい3 研究の経過4 研究の概要5 研究の成果と今後の課題 <p>※上記5項目で項立てをお願いします。</p> |
|---|

- 4 フォント ポイント
※装飾等の体裁については、大会事務局で行いますので、見出し等にゴシック体や倍角文字等は使わず、標準字体のみで記載してください。

- 5 余白 上下・左右 20mm

- 6 文体 常体（〇〇である。 〇〇と考える。）

- 7 図・表等 見やすい大きさと 縮図も可
※写真は可

提言原稿執筆要領②

I 表記

第〇分科会 研究課題「〇〇〇〇に関する課題」

研究主題 ○〇〇〇〇〇〇〇〇
－サブテーマ ○〇〇〇〇〇〇〇〇－

提言者 ○〇県〇〇市（地区・町）教頭会 ○〇市立〇〇学校 ○〇 ○〇

- 1 主題設定の理由
- 2 研究のねらい
- 3 研究の経過
- 4 研究の概要
- 5 研究の成果と今後の課題

II 原稿への依頼事項

1 研究主題について

- (1) 全公教第13期全国統一研究主題を踏まえ設定する。
- (2) できるだけ具体性をもった研究主題とする。

2 副題について

- (1) 研究主題が広義の場合や研究の意図・方向性を示す場合に副題を設定し、具体化する。
- (2) 研究内容を端的に表すものとする。

3 主題設定の理由

- (1) 主題設定に至った背景、経過、地域性等々、課題との関係を考慮し、記述する。
- (2) 全公教編集による「研究の手引き」を参考にする。

4 研究のねらい

- (1) 主題に対し、何をどのように迫ろうとしたのかを明確に記述する。
- (2) 課題や研究主題を踏まえて、記述する。

5 研究の経過

- (1) 研究に取り組んできた経過、取り組み内容を簡潔に記述する。

6 研究の概要

- (1) 研究の継続性・協働性・関与性を十分意図した記述をする。
- (2) 課題解明への取り組みが具体的にわかるように記述する。
- (3) 提言の中心となる部分であり、執筆量は十分取るようにする。

7 研究の成果と今後の課題

- (1) 研究で明らかになったことや新たな課題を簡潔にまとめる。

8 原稿の内容確認と校正

- (1) 必要に応じて、提言者に連絡を取り、内容確認および原稿の書式や表記、誤字脱字等について校正をします。

9 原稿提出について

<提出方法> 下記提出先に電子メールで提出してください。

電子メールの件名は

[茨城大会第○分科会提言原稿 ○○立○○小(中) ○○○○] とする。

<原稿締め切り日> 令和6年11月28日(木)必着

[12月6日(金)に原稿データを全公教へ送付]

※ まずは、1月に開催いたします提言者研修会に向けて原稿提出をお願いします。その際
の原稿には項目5の「研究の成果と今後の課題」は記入しないでください。項目5
として「今後の予定」・項目6として「話し合いの柱」(提言をまとめていて全国の副
校長・教頭と話し合いを深めてみたいこと)を記入してください。

<原稿提出先> 茨城県小中学校教頭会 事務局 〒311-1125 茨城県水戸市大場町 933-1 教育プラザいばらき内 TEL/FAX : 029-269-2711 E-mail : iba-kyotoukai@ktd.biglobe.ne.jp

表記について

- 1 本文は、「だ」「である」などの常体を用い、横書きにする。
- 2 文章においては、できるだけ専門用語を避け、校種や専門教科が違っていても理解できるよう、平易な言葉を使用する。
- 3 漢字や仮名遣いについては、「常用漢字」「現代仮名遣い」を基本とし、外来語や外国の人名・地名等には片仮名を使用する。本文中における漢字表記と仮名表記の不一致は避ける。
- 4 句点は「。」 読点は「、」を使用する。
- 5 「1年生」「3学期」「6組」など順番や表示を表すものは算用数字、「一つ」「一人」など熟語として用いられるものは漢数字を使用する。
- 6 「常用漢字表」にない漢字については、ふりがなを付けて用いることを基本とする。ただし、日常よく使われるものについては、ルビを振らない場合もある。

【表記の具体例】

あいさつ → 挨拶	および → 及び（接続詞）
…にあたって → …に当たって	…におよぶ → …に及ぶ
あたりまえ → 当たり前	かかわる → 関わる
あとで → 後で	3か月、2かしょ → 3か月、2か所
在り方 → 在り方	きたる5月13日 → 来る5月13日
あるいは → あるいは（×或いは）	きづく → 気付く
…ということ → …ということ (×…と言うこと)	…ください → ください (○…資料を下さい)
裏付ける → 裏付ける	こころがける → 心掛ける
…していく → …していく (×…して行く)	ことば → 言葉
いくつか → 幾つか	こども → 子供
いっそう → 一層	こどもたち → 子供たち
いろいろ → いろいろ	1時間ごと → 1時間ごと（×1時間毎）
いわば → いわば	…ころ → …頃
うながす → 促す	computer → コンピュータ (×コンピューター)
おおいに → 大いに	さまざま → 様々
おこなう → 行う	さらに → 更に（副詞の場合）
おとな → 大人	さらに → さらに（接続詞の場合）
おもしろい → おもしろい	じゅうぶん → 十分（×充分）

ずいぶん → 随分
すなわち → すなわち (×即ち)
すでに → 既に
すべて → 全て
だいたい → 大体
…たち → …たち
ともだち → 友達
…のため → …のため (×…の為)
だれ → 誰
…づくり - …づくり (×作り)
つちかう → 培う
つながる → つながる (×繋がる)
できあがる → 出来上がる
…できる → …できる (×出来る)
てだて → 手だて
ドッジボール → ドッジボール
…とともに → …とともに (×…と伴に)
…ととらえる → …ととらえる
(×…捉え等)
虫をとらえる → 虫を捕らえる
○や△とう → ○や△等
…するなど → …するなど (×…する等)
なお → なお (×尚 ×猶)
はぐくむ → 育む
はたらきかける → 働きかける
ひとりひとり → 一人一人
ふしぎ → 不思議
ふまえて → 踏まえて
ふりかえる → 振り返る
ふれあい → 触れ合い
または → 又は (接続詞)
まったく → まったく (全く 可)

みいだす → 見いだす
みとる → 見取り、見て取る
みにつける → 身に付ける
めあて → 目当て (めあて)
めざす → 目指す
もちろん → もちろん (×勿論)
もっぱら → もっぱら (×専ら)
…しやすい → …しやすい (×…し易い)
…するように → …するように
(×…する様に)
よさ → よさ (×良さ)
わかる → 分かる (×解る ×判る)
わきあがる → 沸き上がる わき上がる
(×湧き上がる)
わずか → わずか (×僅か)
わたくし → 私
わたし → 私
わたしたち → 私たち (×私達)
わりあい → 割合
わりあて → 割当て
われら → 我ら (×我等)
われわれ → 我々 (×吾々)
わんぱく → 腕白

補助資料について

茨城大会実行委員会研究部

補助資料を作成する場合は、下記要領にて準備してください。

1 補助資料原稿について

- (1) A4判の横書きを基本とします。
- (2) 資料は必ずホッチキスで止めて合本とし、分散しないようにしてください。
- (3) 表紙には、分科会名・単位教頭会名・学校名・提言者名などを記載してください。

第67回全国公立学校教頭会研究大会茨城大会
第〇分科会 補助資料

提言者 〇〇県〇〇市教頭会
〇〇〇立〇〇〇学校 〇〇 〇〇

- (4) 提出部数については、現地参集での部会参加予定数（後日に連絡）+50部です。
- (5) オンライン参加の参加者には、補助資料データをメール添付又は大会HPからダウンロードにて配付しますので、補助資料データをメール添付にて大会事務局に送信してください。

2 提出について

- (1) 補助資料（印刷物・電子データどちらも）の送付先及び送付締切日について

【送付先】茨城県小中学校教頭会 事務局

〒311-1125 茨城県水戸市大場町 933-1 教育プラザいばらき内

TEL/FAX : 029-269-2711 E-mail : iba-kyotoukai@ktd.biglobe.ne.jp

【締切日】令和7年6月30日（月）厳守

※当日の持ち込みにつきましては対応しかねますので、必ず締切日までに送付してください。

- (2) 作成及び郵送費用について
○各地区の教頭会の負担となりますので、ご了承ください。
- (3) 梱包
○段ボール箱等を使用するなど、確実に梱包を行い、当日までの運搬に支障のないようお願いします。
○梱包の外側に、「全公教茨城大会 第〇分科会補助資料在中（令和7年8月1日使用）」と明記してください。
- (4) 問い合わせ先
○ご不明な点がございましたら、お手数ですが下記連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】茨城県小中学校教頭会 事務局

〒311-1125 茨城県水戸市大場町 933-1 教育プラザいばらき内

TEL/FAX : 026-269-2711

E-mail : iba-kyotoukai@ktd.biglobe.ne.jp